



J A U W

F U K U O K A

(一社) 大学女性協会
福岡支部会報
2018.4.22 発行

第 40 号

第 56 回通常福岡支部総会

日時： 2017 年 4 月 30 日 (日) 11:30 - 14:00
於： ホテルオークラ「山里」
出席： 11 名 委任状： 12 名

I 総会 11:30 ~ 12:10

1. 開会の言葉 (総会成立審査報告)
司会： 石田雅子
2. 支部長挨拶 支部長：青沼美撫子
3. 議事

【報告事項】

- (1) 事業報告 書記： 矢田和子
- (2) 決算報告 会計： 桑原洋子
- (3) 会計監査報告 会計監査：石田雅子

【審議事項】

- (1) 支部長と役員承認
支部長挨拶：青沼美撫子
書 紀：矢田和子 / 加藤志鈴子
会 計：桑原洋子
会 計 監 査：石田雅子
メ-ル担当：相良かおる
顧 問：和栗方子 / 加藤仁美
- (2) 事業計画(案) 書記：加藤志鈴子
- (3) 予算(案) 会計：桑原洋子
- (4) その他

4. 閉会の言葉 司会：石田雅子

II. 卓話「生活保護法とその変遷」 講師：矢田 和子 会員

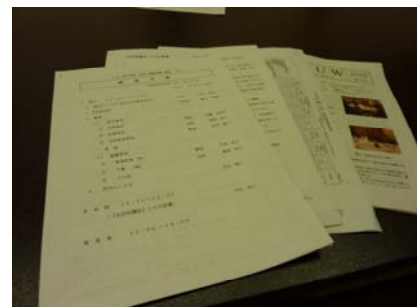
12:00 ~ 12:30

III. 食事 12:30 ~ 14:00

4 月例会の「生活保護法」とその変遷は大変楽しみにした講座であった。今は社会保障や社会保障と行政などについては、どの研究分野でも見落とせないテーマである。矢田さんは長い間その現場において行政の立場からかかわっておられた方で、現場でしか見えない話が聞けるだろうと思った。

まず講演の冒頭で、憲法で「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を制定する前に、昭和 21 年 9 月には国家責任による生活の保護を明文化していたという話におどろいた。村社会の日本では大家が店子の面倒を見るなど近隣及び親類縁者で困っている人々の世話をすることはあったが、戦後の日本はすべての人がどん底の貧しさの中で、国家責任でその制度を作っていたとは全く知らなかった。

その後保護法の変遷を多くのデータをもとに説明された。



最近では単に生活扶助だけではなく、就労自立給付金や教育支援、健康面に着目した支援、医療扶助や不正受給の問題など検討課題が広がってきていることを説明された。そして話を通して、そのいずれも担当者の労力は大変なものだと察せられた。

また矢田さんの話やデータによると受給者の数も高度成長期はかなり減っているが、最近では受給者が増えてきているという。

しかもその内訳をみると高齢者が増えてきているという。高齢者は6つのポケットの話のように若い人より豊かな世代と一般的には思われているが、高齢者の生活保護受給者増は高齢社会にも格差があることを示していると考えざるを得ない。となれば今後高齢者はさらに増加し、年金問題はますます貧弱になる中で、高齢者の貧困問題は深刻さを増すことだろう。貧困と社会保障と自分の生き方を考えさせられる講話であった。 (船津 桂江)

第6回定時会員総会

	日時：5月13日(土)～15日(月)
	会場：横浜バイシェラトンホテル& Towers 4F
支部長会	5月13日(土) 14:00～17:00 出席：青沼
懇親会	18:00～20:00
会員総会	5月14日(日) 9:00～16:30
研修旅行	5月15日(月) 9:00～17:30

激しい雨の中、会場に到着し支部長会に出席。理事、監事の報告、説明を受けた後、24支部長の活発な意見交換には大いに刺激を受けた。仙台支部の会員拡大委員会の報告を聞き、ちょっとした疑問と関心を口にしたら、すぐ近くの縄田拡大委員長が、すぐ反応され、九州3支部長の賛同を得て九州地区4支部合同の会員拡大委員会が、開催されることになった。総会午前の部の議事が滞りなく済み、昼食後の午後の部では、GWI ケープタウン総会の報告の中で、山下いづみ CIR から会費値上げの実態と今後の課題が話された。次いで現地に行き総会に参加された5名の方がたによる報告が、映像を交えて話され興味深かった。私にとって2回目となる支部長会、全国総会は、知識、学識に優れた人々の話を聞ける、またとない機会となった。 (青沼美撫子)

6月公開講演会

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 講演「日中の法律事情」 | 日時：6月25日(日) 13:30～15:30 |
| 講師：張 弘氏(中国政法大学教授) | 会場：早良市民センター3F |
| 2. 講演「巡拝20年の集大成」 | 第3会議室 |
| 報告者：西原 そめ子 会員 | 出席者：会員10名 他4名 |

講演「日中の法律事情」

飛躍的發展を続けている社会主義国中国の、今の「民事訴訟事情」を中国の大学教授から日本語で聞くこの講演は得難い幸運であった。これは、張 弘教授が福岡に留学していた当時、同じ分野を専門とする船津桂江会員がお世話なされたことで実現したものである。

張教授のお話によると住宅用の建設用地はすべて国有地である。その使用権の期間は法人50年、一般70年である。満了しても自動更新される。但し、政府が公共の利益を理由に期間満了前に回収(没収)することを認めているので、建設用地使用権取得の際は都市計画についての情報収集が必要である。一方、建物は自己が取得した私有財産なので、使用期限はない。

2002年に上海の街をマイクロバスで廻ったが、すでに建築ラッシュで、現地のガイドは左右のマニションを指しながら、一戸の広さ、設備と値段を次々説明していた。

現在中国の民事訴訟の多くは、建物を親族で購入したとき個々の家族がどう分け合うか、また親族の構成に変化があった場合どう譲渡し相続するかだそうである。それぞれの主張をなかなか譲らず、解決までの道のりは大変に騒々しいために、裁判官はとてもストレスの多い職業になっている。この騒々しさの中に女性がたくさんいたとしても、男女共同参画の視点で見ると、困ったことでもない。日本も女らしさとか、ここは男の出番という文化を捨てれば、女性の活躍しやすい風土になると思う。(矢田 和子)

講演「巡拝 20 年の集大成」

西原さんは浙江省の普陀山観音霊場を 6 月 19～22 日まで中国観音霊場会 17 人で巡拝され帰国。その直後の講演会となりました。

巡拝 20 年のキッカケは、亡くされた弟さまのご供養からで 1996 年から始められました。現在までに参詣された霊場は、何んと 20 霊場、900 ヶ寺で、日本だけでなくお隣の韓国、中国、インドにも及んでおります。

参拝した時、地元霊場に良いガイド本が無く困ったので、ご自分で書こうと思いたたれ「筑前の寺めぐり」を刊行されました。これが大反響を呼び次々と「筑後の寺めぐり」「北九州の寺めぐり」と福岡県関係の本を出されました。昨年には「百八観音霊場ガイド」を出され「寺社巡拝ライター」の肩書きもお持ちです。10 冊の本を出されて執筆活動を終えられました。後は巡り残した 3 つの霊場を満願するお気持ちが強いと思われます。

こうした巡拝の効能は一般的には・健康増進・心の平安（感謝の心）・近隣相和・娯楽・達成感の充足が挙げられますが、西原さんご自身は不平不満の解消になったと、ご結婚一年で夫君を亡くされ、お腹の中の 4 ヶ月のお子様のお話をされました。

西原さんの場合、巡拝の効用は・ストレス解消・リハビリ効果（膝・腰痛の改善）・心の平安・（明るく解釈、最悪を想定し腹を括る）・感謝の心を培う・達成感だけでは足りない知的興味の充足を挙げられました。

私も何冊か読ませていただきましたが、まるで専門家の書のように詳しく細やかな説明文、写真も豊富で楽しく読ませていただきました。ありがとうございます。(青沼美撫子)

毎日女流展を観る

熊本支部大堂 喜三子会員の書を見に行く

日時：7 月 16 日（日）14：00 ～ 15：30

会場：福岡県立美術館

出席者：和栗・加藤仁・青沼

（他日：相良） 4 名

本年度「毎日女流展」の「西部毎日書道会賞」を受賞された大堂会員のお誘いで、福岡会場の県立美術館に 3 人で行って、大堂さんの独特で力強い作品を他の作品とともに、時間をかけてゆっくり観てきました。(青沼美撫子)

7 月公開講演会

講演「越境大気汚染ってなに？」

-福岡市の大気汚染について-

講師： 是松 良明氏（福岡市環境保全課）

日時：7 月 23 日（日）14：00 ～ 15：30

会場：中央市民センター2F 視聴覚室

出席者：8 名 他 5 名



午後には台風5号が近づいてくるというニュースに、街行く人にも慌ただしさを感じる中「福岡市の大気環境」のテーマで講演が始まった。福岡市では一日に数回は目にするPM2.5について、

先ずPM2.5とは何を意味する数字か。PM=Particulate matter=微粒子、2.5は大きさを表す数字で $2.5\mu\text{m}$ （マイクロメートル）、髪の毛の約30分の1という小ささである。この物質は日本でも発生するが、ここ福岡は東南アジアに近く、70%は国境を越えて飛来すると言われている。この濃度の高い微粒子を含む大気を長期にわたって吸い込むと、呼吸器の疾患や肺癌などの重篤な病気を引き起こすことがある。福岡市では1日平均1立方メートル当たり $35\mu\text{g}$ （マイクログラム）を越えると予測されるときはレベル1の注意報を、 $70\mu\text{g}$ を越えると予測される時はレベル2の注意喚起予報を発信している。またレベル1、2の場合のそれぞれの行動の目安、例えばレベル1→マスクを着用する、帰宅時の手洗い、うがい。レベル2→激しい運動を避ける、窓を開けない等である。

最近連日のように報道される世界各地の異常気象の数々に将来の不安を感じない人はいないであろう。私たちは大気を汚染する物質についてせめて正確な知識を得て対処していくこと、又有害物質の発生を少しでも少なくするための努力をしていかなければならないと痛感した。

（石蔵幸代）

29年度アミカス市民グループ活動支援事業

映画「未来を花束にして」 上映会

日時：10月25日（水）10：00～16：00

会場：アミカス4F 大ホール

出席者：5名



20団体で作る「アミカス参画ネット」実行委員会の一員として、最初から当日までの上映会開催の準備に関わりました。

5月中旬から準備しましたが、大人100円、大学生以下無料（要予約）のチケットが、想定外の人気で不足分のチケットの入手に、苦勞しました。

当日、「参画ネット」共同代表の富永桂子さんが、上映前に、映画に出てくる過激な運動家エメリン・パンクハースト夫人の扮

装で、ステージに上がった途端、会場はどよめきました。富永さんが、当時の時代背景や活躍した人物紹介を熱く語られ、しかも、わかり易かったので、その後の映画鑑賞に大いに役立ったと思いました。



100年前のイギリスには、女性には投票権も親権もありませんでした。思想も教養も富みも無い母親が主人公で、仲間になった女性たちと、命がけて戦って参政権をかちとった実話に基づく映画でした。

（青沼 美撫子）

10 月公開講演会

講演 「魅惑の健康情報は誰のため？ 何のため？」 日時：10月25日（水）13：30～15：30
講師：相良 かおる 会員 会場：あいの心 9F 研修室 D
出席者：11名 他1名

9月17日に行われる予定でした相良 かおる会員の講演は、台風のため延期となり今日になりました。

最近、新聞を見たりテレビをつけたりすると、やけに目や耳に飛び込んでくる健康情報の数々。これらの情報をどう考えていけばいいのかというお話でした。身体に良さそうなキャッチフレーズの特定保健用食品（トクホ）やサプリメントなどは、その効能は個人差があり一様ではなく、但し書きが小さく表示されているので、注意が必要とのこと。このように健康情報があふれている現代社会ですが、経験や感性などで賢く、上手にその情報を取り入れ、健康寿命を長く保てたらと思いました。

相良会員のお話はとても爽やかでしたので、明るい気持ちで例会を終えることが出来ました。

（加藤 志鈴子）

一日ツアー 宗像大社とその周辺

秋の一日ツアーは宗像大社へ

日時：11月19日（日）8：40～16：00
場所：宗像大社
出席者：4名

JAUW 福岡支部で宗像へ行ったのは、平成13年に次いで今回2度目になります。前回は、皆若くて参加者も10名を上回り、近くの鎮国寺まで山道を登ったことでした。今回は、4名で顔ぶれも変わりました。ボランティア案内人に沖津宮、辺津宮を含めた総社、宗像大社の説明をいただき、社殿と宝物館も拝観しました。朱塗りの社殿は変わらず悠然と建っていて、昔、ノルウェイからの客人を案内した時、カーブを描いて反りあがった屋根の形を、空になぞりながら、いたく感心していたことを思い出しました。宝物館で古代の工芸品の数々を見ながら、美的感覚は昔も今も変わらないことを知りました。

「国際交流が進み、海外からの参拝者も増えるでしょうから、案内、説明に外国語を併記した方が良いのでは」と、適切な提言をする人もいて、ご案内のガイドさんも納得されていました。最寄りの道の駅で、遅めの新鮮な魚料理の昼食をいただき散会。

天候も幸いして充実した気持ち良い一日でした。

（和栗 方子）

本部役員と福岡支部会員との夕食会

日時：12月8日（金）18：30～21：00
場所：西鉄グランドホテル
地下1F「大名蔵」
出席者：本部8名 支部6名

“嵐グループ”の福岡公演と重なり、東京からの本部役員関係者のホテルが取れず、別々に福岡入りされた方々に、「大名蔵」の前でお会いでき、ほっとしました。本部から福岡支部との懇親の

ための夕食会のお誘いがあり、ホテルなどいつもお世話になっている梅居会員にご相談すると、博多の冬の食は‘ふぐ’でしょうと言われ、全てをお任せいたしました。

15名までの個室で椅子席、破格の低料金での「大名蔵」で、陽気なお酒と、ご飯、香の物、デザートを除いた7品目のふぐ料理に堪能しながら歓談でき、翌日の講演と拡大委員会の大きな励みとなりました。
(青沼 美撫子)

講演会と JAUW 九州地区会員拡大委員会

日時：12月9日（土）10：30 ～ 16：00

場所：中央市民センター2F

第1会議室

出席：本部7名 会員7名 他8名

I. 講演 「言葉を使う～思いを伝える原動力、その照準を今どこに?～」 10:30 ～ 12:00

講師 鈴木 千鶴子（長崎支部長 国際ネットワーク委員長 長崎純心大学客員教授）

2017年12月9日（土）に JAUW 会員拡大委員会と九州地区4支部（大分、熊本、長崎、福岡）の共催で公開講演と会員拡大ワークショップが福岡市立中央市民センターで開催されました。

午前中は鈴木千鶴子長崎支部長（国際ネットワーク委員会委員長、長崎純心女子大学客員教授）による「ことばを使う～思いを伝える原動力、その照準を今どこに?～」と題する講演がありました。自己紹介によりますと、

鈴木千鶴子さんは長崎大学英文科卒業後、大学院 MD は教育学、DC は国際予防医学・社会医学を専攻され、学際的な資質を身につけられたということです。



講演の内容は私には難解でしたが、言葉を大切にする視点、とりわけ母語を基礎に据えて言語教育を展開する方向性には共感を覚えました。言葉はコミュニケーションの手段ではありますが、それだけでなく私たちは言葉によってしか物を考えることが出来ません。言葉が持つこの側面をクリティカル・シンキングと称して、論理的、批判的思考を促されています。そこで、ご自分の研

九州地区支部長さん（左端:鈴木千鶴子さん）

究の中から事例として「国際共同作業力に関わる大学生の英語力の内外要因とその発達過程に関する実証的研究」を

取り上げられ、ブルガリア、ドイツ、日本、ポーランド、スペイン、米国の6か国で各1大学を選び、学生（被験者数13人～31人/大学）に英語によるオンライン調査をした結果の国別比較が提示されました。それによりますと、「<1>発話目的・機能別分類」では「運営・進行」、「技術」、「社交」、「内容」の4分類で国別に集計され、「<3>思考動詞レベル別使用割合」ではレベル1のrememberからレベル6のcreateまで6つのレベルに階層化して集計され、これらの考察から①ブルガリア、ドイツ、ポーランドと、②日本、③スペイン、米国、との3つにグルーピング出来ることが述べられました。

参加者からは、「母語の習得は何歳位で出来るか」、「クリティカル・シンキングはどのようにして習得するのか」、「家庭の教育も影響するのではないか」といった質問が出されました。

さて、この報告を書くに当たって当日の講演資料を再読して改めて確認したことは、日本のデータが特異な数値を示していることでした。英語力の壁もあるかと思いますが、<1>では相対的に「社交」の

割合が高く、「内容」が低いこと、<3>ではレベル2の understand に77%と集中していて上位のレベルがごく少ないこと、言わばクリティカル・シンキングが成熟していない現状を知りました。グローバル化の最中、母国の言語と文化を大切にしつつ、他国の人々と交流し、協働、共創の地平を拓く時代に生きるものとして、この講演は良い刺激となりました。

最後に調査の手法についてですが、1大学のあまり多くないサンプルで国を代表できるものだろうか、という疑問が残りました。

ことばを使う
～思いを伝える原動力、
その照準を今どこに？～
 鈴木千鶴子
 (JAUW長崎支部長・国際ネットワーク委員会委員長)

公開講演と話し合い・会員拡大ワークショップ
 (一社) 大学女性協会 会員拡大委員会 福岡・長崎・大分・熊本支部
 2017年12月9日
 福岡市立中央市民センター

データ概要

国籍(学生: 男性; 女性=合計)	発信文	語数
ブルガリア (M:2; F:29 = 31)	747	10,340
ドイツ (M:4; F:19 = 23)	3,742	45,182
日本 (M:0; F:13 = 13)	569	4,900
ポーランド (M:3; F:19 = 22)	1,516	15,575
スペイン (M:4; F:12 = 16)	602	6,562
米国 (M:0; F:13 = 13)	431	5,804
合計 (M:13; F:105 = 118)	7,607	88,363

< 1 > 発話目的・機能別分類 六ヶ国比較

	運営・進行	技術	社交	内容	合計
ブルガリア	147 19.7%	4 1%	123 16.5%	473 63.3%	747 100%
ドイツ	749 20%	22 1%	582 15.6%	2389 63.8%	3742 100%
日本	145 25.5%	3 1%	192 33.7%	229 40.2%	569 100%
ポーランド	292 19.3%	10 1%	231 15.2%	983 64.8%	1516 100%
スペイン	116 19.3%	3 1%	150 24.2%	333 55.3%	602 100%
米国	91 21.1%	0 0%	100 23.2%	240 55.7%	431 100%

< 3 > 思考動詞レベル別使用割合

	ブルガリア	ドイツ	日本	ポーランド	スペイン	米国
レベル6	1 3%	24 16%	1 6%	5 10%	0 0%	0 0%
レベル5	4 13%	5 3%	1 6%	0 0%	0 0%	0 0%
レベル4	7 22%	27 18%	1 6%	4 8%	1 10%	3 43%
レベル3	12 38%	38 25%	1 6%	16 31%	6 60%	2 29%
レベル2	8 25%	46 30%	14 77%	22 42%	3 30%	2 29%
レベル1	0 0%	12 8%	0 0%	5 10%	0 0%	0 0%
計	32 100%	152 100%	18 100%	52 100%	10 100%	7 100%

(加藤仁美)

II. 会員拡大ワークショップ

「JAUWは、創立70周年を迎え、大学女性協会の発展と社会的発展に向け、会員の輪を広げていきましょう！」

コーディネーター 山下いづみ(静岡支部長 CIR 国際支援担当理事) 13:30 ~ 16:00



会員拡大ワークショップ

鷺見八重子会長のご挨拶を聞き改めて、JAUWのビジョンは「世界のすべての女性が輝くように」であり、目的は、①女性の高等教育の向上・②男女共同参画社会の実現・③国際協力と世界平和であることをかみしめた。1946年の創設以来その時代、時代に女性が輝くように活動しているNGOである。

これらの目的どれも戦後70余年ずっと重要な日本社会の目標でもある。にもかかわらず、会員数はこの20年で半減以上という危機に直面している。

本ワークショップは、拡大委員会が準備した丁寧な資料に基づき福岡支部と長崎、大分、熊本支部の二組に分かれて進められた。

1 SWOT分析: JAUWの強み(s) 弱み(w) 機会(o) 脅威(t) 模造紙に自由記述。

強み: 人柄の良さ、知識人の多さ

弱み: 高齢化、一部の層 会員の少なさ

機会: 職場・同窓会・学会・知人

脅威: 若年層の減少 女性の多忙 同様な組織

- 2 会員はJAUWから何を受け取り、何を与え、どのように属しどう成長するか
- 3 エンゲージメントのレベルとしては、先ずその存在を知り、セミナーや事業に参加し、場合によってはその企画者として参画及び委員やリーダーとなる。
- 4 行動計画 各支部現会員の一割の拡大を目指す。福岡支部は30年4月までに2名。

福岡支部も会員数は半減しており、その原因を改めてこのワークショップで認識した。会員は先ず、会の持つ特長を楽しみ、そこで見聞を広め経験や知識を提供しあう、そのうえで関係機関と連携して行動するとともに、小さくても自分自身も行動する一歩が大切である。

「男女共同参画社会の実現」に例をとれば、道半ばではあるもののJAUWの会員を含め多くの女性が、蟻の一穴との思いで働き、切りひらき、汗と涙の一步一步で今がある。

当面重要な課題は働き方改革による労働時間の短縮と男性の考え方で固まった組織に女性目線もどんどん入れる改革である。それを目標にする女性、それを応援する女性、JAUWに関心のある方を会員に迎えたいと思います。 (矢田和子)

新年会とミニバザー

日時：1月28日(日) 11:30 ~ 13:30
 於：西鉄グランドホテル
 地下1F「桃林」
 出席：会員12名



西鉄グランドホテル地下1階「桃林」に於いて新年会が取り行われました。

青沼支部長のご挨拶の後、目にも鮮やかな中華料理のランチコースをおいしく頂きながら会が進められました。支部長からは12月9日(土)に開催された「会員拡大ワークショップ」についてご報告がありました。JAUWの強みを生かし、今後会員数が増加されることが期待されます。また、加藤会

員より、2月3日から3月11日まで開催される福岡県立美術館での「中村研一展」に関するご案内がありました。

食後には、バザーが開催されました。持ち寄ったお品物や、色とりどりのJAUWロゴマーク入りのTシャツ・ポロシャツが販売されました。

本日は、私久保田が初めて会に参加させて頂き、支部長より僭越ながらご紹介頂きました後、会員の皆様からお一人ずつ自己紹介を賜りました。ご自身のこと、大学女性協会についての思い、プライベートなこと、ときにユーモアをまじえてお話し頂き、大変心が温まる思いをいたしました。

皆様今後ともどうぞよろしくお願い致します。 (久保田 千景)

会計監査役員会

日時：3月4日(日) 12:00 ~ 13:30
 於：西鉄グランドホテル
 地下1F「マンジャーモ」
 出席：役員6名

会計監査を終え、ランチ後、記念誌の進捗状況を話し、発行期限の延期を決めました。紙面についても再考したいと思います。

支部総会の打ち合わせ（配布する資料などの準備）と会報作成の相談をしました。 例会後の話し合いはしてきましたが、久しぶりの役員会は有益でした。 （青沼 美撫子）

3月例会

講演「折り紙建築のワークショップ」
講師：有座 まさよ氏
（有座企画一級建築士事務所代表）

日時：3月25日（日） 14:30～16:30
於：中央市民センター3F
第2会議室
出席：4名 他6名



久しぶりの青空、八分咲きの桜見物で賑わう舞鶴公園を見つつ会場に到着した。

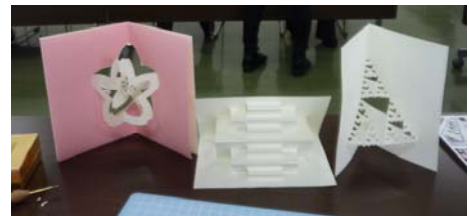
本日は自分達で手を動かすワークショップ・・・一枚の紙に鋏を入れ折り曲げるだけで建築物を作り出す・・・というものです。講師の有座まさよ氏は九州大学工学部建築学科を卒業され、木原流折紙建築の教えを受けたのち、有座一級建築工事事務所の代表として折紙建築の創作とワークショップをされている、とてもチャーミングな方でした。銘々の机の上にはハサミ、竹串、カッターナイフ、厚い下敷等が用意されており、作品見本として階段、アクロス館、張り子の虎等が壇上にズラリと並んでいました。

先生が鋏の入れ方、折山のつけかた等を説明しながら階段の作り方を教えてくださいます。皆、小学生に戻ったような真剣な面持ちで挑戦していきます。するとどうでしょう、

立派な階段（6段の方もいれば10段を越える方も）が完成しているではありませんか。

それを畳むと又平面に。これは一種のマジックではないかと一瞬目を疑いますが、さにあらず。

先生の説明によると、何とあの難しい幾何学の考え方が基本になっており、幼児から小中高生、大学生更には高齢者にとっても段階に応じて創作力や空間把握能力の養成にも結びつくこと、そして折紙建築は今や日本の文化として認識されていることを知りました。会員が製作した作品がずらりと並び、異次元の空気を醸し出していました。



手先の不器用な私についてはいくのに精いっぱいでしたが、この二次元から三次元への見事な変身ぶりにすっかり魅了され、あっという間に過ぎた2時間でした。

（石藏幸代）

<その他>

① 「福岡市暴力追放協議会総会」に出席

日時：6月6日（水）14:00～15:00

会場：エルガーラ 7F 多目的ホール

出席：1名

② 「おめでとうございます」

(1) 矢田 和子（俳号 わかな）会員 本年度福岡市文学賞（俳句）受賞

(2) 桑野 楓夏さん（福岡支部の JAUW2017 年度 社会福祉奨学生 筑紫女学園大学3年生）

2017年12月「ドバイ 2017 アジヤユースパラ競技大会」にボッチャの日本代表選手として出場

③ 新会員ご紹介 「ようこそ福岡支部へ」 （入会順）

*久保田 千景さん 大阪府立大学大学院（修士 看護学）

- *小野 明子さん 日本女子大学（教育専攻）
*井上 宏子さん 日本女子大学（物理専攻）

九州北部集中豪雨 ー 篠崎 正美会員のお便りから ー

7月5日の集中豪雨で被災された篠崎会員に福岡支部から5万円のお見舞いをしましたところ、感謝のお気持ちと当時の状況とお見舞金の使途についてのお便りをいただきました。篠崎会員の小規模介護施設「ぬくもりの家」は、幸い無事でした。

入居者を動かさない決断をされたので、近くの川の増水状況を何回も見に行かれたそうです。ご自宅も無事でしたが、ご夫君経営の酒造会社は壊滅的被害を受けられ、ゼロからの出発だと述べられていました。

篠崎会員はご自分のことより社会福祉法人の役員として、保育所、ファミリーサポートセンター、子育てネットサロンなどを運営されていて、被災されたご家庭への支援活動を展開されました。お見舞金の使途は、子育て家庭・「ぬくもりの家」スタッフ2人（その中の1人が病気になる、医療費を加算）に渡され、感謝されておられるそうです。篠崎会員の支援活動を讃えたいと思います。
(青沼 美撫子)

大学女性協会（JAUW：Japanese Association of University Women）

1946年に創設され、1954年に国際大学女性連盟（IFUW：1919年創立）に加盟。2012年に一般社団法人となり、IFUWと協働しながら女性の地位向上を目指す、公益活動を行う非政府組織（NGO：Non-Government Organization）です。奨学金事業、女性リーダーの育成、国内外の諸問題に対する唱道活動など多様な事業を展開しています。
Web ページ：<http://www.jauw.org/>

会費

- 入会金 1,000 円（正会員のみ）
年会費 正会員 7,000 円（IFUW 年会費を含む）
賛助会員 6,000 円

福岡支部は、1947年に設立され、支部会費は2,000円です。

国際大学女性連盟（IFUW：International Federation of University Women）

世界61カ国の大学卒業女性による国際非営利、非政府団体です。本部はジュネーブにおかれ、3年ごとに加盟国各国回り持ちで総会が開かれます。以下の目的を達成するために、各国でさまざまな状況に応じて活発な活動を展開しています。また、国連諸機関に代表チームを派遣し、世界の重要な問題に対して直接発言をしています。

目的

1. 女性の生涯にわたる教育を推進する
2. 国際協力、友情、平和と人権を推進する
3. 女性の地位の向上を擁護し、支持する
4. 公的および私的な生活でのリーダーシップと意思決定において、女性がその知識と技術を活用することを奨励する